



特定非営利活動法人

神戸日独協会会報

BERICHTE DER NPO JAPANISCH-DEUTSCHEN GESELLSCHAFT KOBE

Nr. 371

Juni 2022

NPO法人 神戸日独協会

〒651-0087

神戸市中央区御幸通8-1-6 神戸国際会館19F

TEL/FAX 078-230-8150

郵便振替 01160-9-18199

E-mail: info@jdg-kobe.org URL <http://www.jdg-kobe.org/>

NPO JAPANISCH-DEUTSCHE
GESELLSCHAFT KOBE

International House Kobe 19F

Goko-Dori 8-1-6 Chuo-Ku

651-0087 KOBE/JAPAN

協会活動の活性化について

神戸日独協会会長 柘田義一

先月の定例総会及び今月初旬の会員懇談会において、協会の直面している財政上の危機の打開と協会活動の活性化について多くの会員の方からご意見をいただき、ありがとうございました。これらのご意見を大いに参考とさせていただき、理事会にて早急に協会の方向性を決め、ご提示させていただきます。

昨年5月会報に「新年度の協会活動について」を掲載しました。当時はコロナ禍の真ただ中にあり収束の見通しも全くありませんでした。このような状況の中での協会運営・活動は、これまでとは異なる新しい展開が求められていました。新年度を機に理事を中心とした新しい委員会(作業グループ)を立ち上げて、コロナ禍での協会運営・活動のこれまでとは異なる新しい展開に対処してきました。一定の成果を挙げることはできましたが、会員の皆様との間に乖離が生じたことは歪めませんでした。それまで協会活動の企画立案・準備・実施については会員のご参加を得ての実行委員会を中心に行ってきました。しかし委員の高齢化によるご引退、コロナ禍による参加ご自粛等により、実行委員会は有名無実化していましたので、活動を一時休止させていただいてきました。総会と会員懇談会での会員のご意見にもありましたように、現在の協会危機を打開するための協会活動の再活性化には会員皆様のご協力が不可欠です。

ご協力を得るために**実行委員会を再開**させていただきます。従来のように月一回開催し、協会活動の企画立案・準備・実施のみならず、協会の抱える問題点解決の中期・短期的展望の策定、ITを活用した広報、GJGの運営、ドイツ語講座の展開などについても広くご意見をいただきます。理事も積極的に出席して会員との交流に努めます。従来のように各委員には無報酬にてのボランティア参加のお願いとなりますが、是非とも積極的にご参加をいただき、危機打開のためにお力添えを切にお願いいたします。

発起のための実行委員会を下記のように開催しますので、是非ともご参加いただき新しき実行委員会に対してご意見をいただきたく、お願いを申し上げます。

実行委員会開催のお知らせ

日時：6月19日(日)14:00~15:30
場所：神戸日独協会会議室
協議：定例開催日の決定、委員会組織、委員会の扱い事項など、
ご出席いただける方は、電話・メールにてご連絡ください。

☐ ホームページを更新しています

このコロナ禍の2年間本来であれば弊協会の唯一の発信の場であるべきホームページが機能不全に陥っていました。皆様にはご不便をお掛けしましたことを、心よりお詫び申し上げます。

5月中旬にやっと障害が排除されて、更新が可能になりました。まずは諸記事の更新を順次行っています。お伝えすべき記事の更新が終わり次第、より良く見ていただけるようにホームページの刷新を予定しています。

神戸日独協会の活動をホームページを通じて知っていただくために、努力邁進をしておりますので、今後とも弊協会ホームページをご覧いただくようお願い申し上げます。

🍷 🍷 🍷 Stammtisch mit Wein の開催 🍷 🍷 🍷

コロナ禍で会員間の交流ができませんでしたので、昨年8月から Stammtisch mit Zoom を毎月開催してきました。新年度になりコロナ禍も収束へ向かいつつあり、社会活動も平常へ戻りつつあります。この状況を受け会員から「以前のような対面による Stammtisch の復活を」との要望が多くなってきました。

そこでこれまでの Stammtisch mit Zoom とは別に「対面による Stammtisch」を復活します。月に一度日曜日の昼下がりに、今のドイツについて、自分のドイツへの思いについてなどドイツ好きが集い歓談をしませんか。ドイツワインが加われば、歓談も弾むでしょう。当面は感染予防に十分配慮した上で、Stammtisch mit Wein を開催します。

日時：6月19日(日)15:30~17:30

場所：神戸日独協会会議室

会費：2000円(ワイン代+部屋代)

今月の話題：9ユーロチケットとドイツ観光

話題提供者／武村陽子さん

申込：準備の都合上3日前までに、電話・メールにて事務室まで。

☆ワインは用意しますが、ワインの持参は大歓迎です。勿論ソフトドリンクも用意します。

おつまみは用意できませんので、お好みの自家製・市販おつまみをご持参ください。

※「当日参加も可」(最終ページを参照…)

物語における「変身」と「異形化」 —カフカと『鬼滅の刃』・『ジョジョの奇妙な冒険』—

神戸日独協会は、人気マンガ『鬼滅の刃』の解説本である『鬼滅夜話 キャラクター論で読み解く「鬼滅の刃」』の著者であり、ドイツ文学・文化学研究者である植 朗子氏の1日講座を行います。ドイツ語圏の伝承文学研究の観点から、日本の現代のポップカルチャーについて論じていただきます。新しい視点からドイツ文化を楽しんでみましょう。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

【講座内容】

人間が「人間以外の存在」へと姿を変える物語は、神話の時代から語られてきました。「変身」にまつわる伝承、さらには古い伝承をもとに再創作された神話的物語について考えてみましょう。この講座では、「変身」にまつわるエピソードの中から、とくに「醜い姿」へと姿を変える運命を背負った人物と、その家族の心の動きをテーマとします。怪物の姿に変身(=異形化)してしまった家族を周囲はどのように受けとめるのでしょうか。

具体的に取り上げる作品は、日本のポップカルチャーでは、『鬼滅の刃』、『ジョジョの奇妙な冒険』(※ただし4部「ダイヤモンドは砕けない」に限定する)です。ドイツ文学作品としては、カフカ『変身』を取りあつかいます(『変身』は2022年にドイツ文学者・川島隆氏が角川文庫から新訳をご発表されたところですので、そのご解説も参照します。マンガ作品についても解説します)。

日 時： 6月25日(土)14:00～15:30(1時間講演+30分質疑)

会 場： 神戸日独協会会議室

講 師： 植 朗子さん(神戸大学国際文化学研究所推進インスティテュート協力研究員)

【講師紹介】

植朗子(うえ・あきこ)。博士(学術)。現在、神戸大学国際文化学研究所推進インスティテュート(Promis)協力研究員。和歌山県新宮市出身。ドイツ語圏の民間伝承(昔話、神話、伝説、メルヒェン)を研究分野とし、専門は物語における「怪異」。ドイツと日本の伝承研究の手法を用いて、怪異のモチーフ・話型について研究しており、日本のポップカルチャーの作品解釈を web サイト「AERA dot.」(朝日新聞出版)で不定期連載中。週刊少年ジャンプで連載され、異例の大ヒット作品となった『鬼滅の刃』の解説を行い、『鬼滅夜話 キャラクター論で読み解く「鬼滅の刃」』(扶桑社、2021年)などの著書がある。

授業形式： 対面(オンライン配信は行いません)

定 員： 25名

受講料： 会員1500円(一般2000円)

お 申 込： 電話またはメールにてお申込みください。

神戸日独協会ドイツ語特別講座

「ドイツ語をより身近に、より深く」

神戸日独協会は通常授業とは異なる観点からドイツ語に対する関心・興味・理解をさらに深めていただきたく、第3回ドイツ語特別講座「ドイツ語をより身近に、より深く」を開講しています。今回は私たちの言語生活で極めて重要な「自分の気持ち」の表現と「相手の気持ち」の理解、いわゆる「話法性 Modalität」と呼ばれる範疇をテーマにしています。これらの問題について教授経験豊かな講師がコミュニケーションの面から、ドイツ語学の面から分かりやすくご説明をします。この講座は入門・初級者から中級者を対象にした講座です。ドイツ語をこれから学ぼうとする方、現在学習されている方、ブラッシュアップしようとする方に最適な講座です。対面授業ですがZOOM併用により行いますので、時間の都合や感染予防などで教室へ通えない方にもお勧めの講座です。公開講座ですので、非会員の方も是非ともご参加ください。

開講日時と授業内容：

第2回 6月11日(土)10:30~12:00 「話す言葉、スピーチ、アカデミックライティング、文学
— 様々なテキストの構成」

第3回 6月25日(土)10:30~12:00 「敬語・丁寧語」

話す時私たちは単に言葉を並べるだけでなく、常に人間関係などの社会的な要因も気持ちも表現しています。そこには「話法」という文法が役に立ちます。外国語の学習者は、まずは内容の伝達ができるようになれば良いと考え、「話法」を後回しにする傾向が見られます。しかし、それは決して良いことではありません。コンテンツは無限にあるのに対して、「話法」は数少ないパターンに基づいているので、「話法」を身につけることによってより効率良く学習できます。例えば、ビジネスレターを書きたい場合、必要な言い回しや敬語などの「話法」さえ知っていれば、文全体の「枠組み」を作ることができます。そしてそこに内容を導入しますが、それはさほど難しいことではありません。逆に、コンテンツをたくさん集めることができたとしても、適切な「話法」についての知識がなければ、手紙が書けません。

日常会話についても同様なことが言えます。「話法」さえ知っていれば、内容伝達が大分楽くなりますので、早く話せるようになりたい、早く自ら文章を書けるようになりたい方は是非「話法」の学習に取り組んでみてください。

第4回 7月9日(土)10:30~12:00 「文法上の性の謎にせまる」

ドイツ語の学習者は「文法の性」を、ドイツ語の名詞で覚えなければならない、ただ面倒として考える人が多いに違いありません。教科書もほとんどが名詞の変化をリストアップするのみで「文法の性」をそのコミュニケーション上の役割から説明するものがとても少ないです。このレッスンではコミュニケーション上の役割に焦点を合わせながら、より効率的な学習を目指します。初心者の方はもちろん、「まだここが難しいな」と思う中級者の方にもお勧めです。

講師紹介：

神戸日独協会常務理事 Stefan Trummer-Fukada (元神戸大学教授)

神戸日協会会長 柘田義一 (神戸大学名誉教授)

授業形式 : 協会会議室での対面授業。ZOOMによるオンライン授業を併用。

定 員 : 20名

受講料 : 1回につき会員1500円 (一般2000円)

お 申 込 : 電話またはメールにてお申込みください。

申込後、入金を確認し次第、アクセスのリンクをお送りします。

ドイツ語特別講座受講感想

ドイツ語特別講座を受講して

ドイツ語講座受講生 西尾 由華里

5月21日にドイツ語特別講座第1回「話法とは、話法の助動詞の役割」を受講しました。話法は話し手の感情や心理を反映するものであり、コミュニケーションをとる上で気持ちを表現するのに話法の助動詞や話法詞などを使います。普段の講座では学びきれない着眼点で話法について学ぶことができました。

日本で使う謝罪の言葉をドイツ語で直訳してもドイツ人には不快に感じさせてしまったり、逆もしかり。日本人にとっては反省していないと感じたり、相手の視点や文化が分かれば理解できますが、実際会話をする中では失敗を前もって回避することが重要だと感じました。

特に辞書には載っていない müssen、können の表現や細かいニュアンスについて学べたことが興味深かったです。

講座の内容にはなりますが、

A : Gehen wir heute Abend essen?

B : Du, ich muss nach Osaka fahren.

この muss がないと相手への気持ちが入っていない。本当は行きたいけど、自分以外に理由がある=日本でいう「ごめんね」というニュアンスを含んでいる。

これを kann にすることも可能で、謝罪の意味は含まないが、大阪へ行くのを楽しみにしているんだ、という楽しみで嬉しい気持ちを表現し、その場を解決する。相手に気持ち良く理解を得る、気持ちよく行ってらっしゃいと思わせるような会話になるということです。können の「~できる(可能)」を抜け出して楽しみにするを表しているようです。日本人はよく、ドイツ人は自分の表現しかしないというが、ドイツ語は反省を示して(理由を述べて)謝罪を表しています。

Trummer 先生と柘田先生の丁寧な解説に引き込まれました。日本とドイツのお風呂についての考え方の違いも面白かったです。

言語を学ぶことで自分の視点も広がり、他者と共有する楽しさも学ぶことができると改めて感じました。話法を使って自分の気持ちを表現できるようになりたいです。次回の講座も楽しみにしております。有意義な時間をありがとうございました。

会員による企画 「我が家で迎える祝祭」

第4回 「我が家で迎える手作り～七夕～」

会員の皆さんが自宅で楽しい七夕を迎えられますように、「我が家で迎える祝祭」シリーズ「クリスマス」「オスターン」「こどもの日」に続いて「我が家で迎える手作り～七夕～」を行います。梅雨の合間に「七夕」の食卓を飾る料理やお菓子と装飾品を皆さん一緒に作りましょう。

講師と内容

小田 晶子さん : 「笹飾り」と「風鈴」のはがき絵

日下部管子さん : 「3000年前のチーズディップ」と「エディブルフラワー入りチーズディップ」

柘田 節子さん : 七夕飾りと天の川の額飾り

日 時 : 7月2日(土)13:30～16:30

場 所 : 神戸日独協会会議室

定 員 : 20名

参加費 : 会員1500円・一般1700円(材料費+部屋使用料)

申 込 : 6月30日(木)までに電話・メール・Faxにてお申込みください。

材料は講師が準備します。マスクの着用をお願いします。

パッサウで出会った考古学者

料理研究家 日下部 管子

先日、日本に留学中のドイツの学生から、京都や奈良など様々な歴史ある地への観光を楽しんでいる様子を聞きながら、そういえば私自身もマールブルグに滞在中には、よく電車に乗って、あちこち訪ね歩いていたことを懐かしく思い出していました。

日本では、電車やバスなどに乗ると、必ず行き先の丁寧なアナウンスがあり、時間もほとんど正確で、それが当たり前のように過ごしてきた私にとって、ドイツで初めて一人で乗った電車の思い出は、今も忘れることができません。あの頃のドイツの電車は、アナウンスもなく静かに出発し、安心して座っていると、途中の駅で列車が切り離され、別の方向に行き、目的地に着くどころか、さらに遠くに行ってしまう、泣きたい思いをしたことも数えきれないほど経験しました。今振り返るとすべてが懐かしい思い出です。

パッサウを訪れたのは3月の半ばで春はまだ遠く、時折雪が舞う中を岸辺に向かって歩いてゆきました。この地はドナウ川、イン川、イルツ川が合流している別名ドライフリュッセシュタット(Dreiflüssestadt:三つの河の街)と呼ばれ、世界で最大のパイプオルガンがあることでも有名な美しい街でした。川沿いを歩いていると、湖にいるはずだと思っていた白鳥たちがドナウ川を泳いでいる姿を見て、とても驚いた記憶がいまだに残っています。

あの日から数十年の時が過ぎ、2018年の秋、ウイーンからブタペストまでのリバークルーズ船に乗って、パッサウを再び訪ねる機会がありました。この時は美しい聖シュテファン大聖堂でパイプオルガンの音色を楽しみ、そのあと、近くにある考古学博物館で古い歴史を辿る機会を得ました。

レクチャーをしてくれたのは、考古学者のローマン君というまだ若い青年で、彼からこの地が昔はケルト人の居住地であったこと、そして2世紀半ばにはすでにローマ軍に支配され要塞が築かれていたことや、5世紀になってローマ軍が撤退した後、いったん集落は消滅し、その後、司教所在地となり今日の美しいパッサウができあがったことなど、とても興味深い話をしてくれました。

彼は特にローマ時代が衰退した後、消滅した集落の人々の生活に興味があつて、食文化も含めて歴史を学んでいると話してくれました。私も日本で料理を教えていることを話すと、目を輝かせて「それでは、3000年前のローマ時代のお料理を教えてあげましょう！」と言って今日のレシピに入れた“3000年前のチーズディップ”を教えてくださいました。このレシピは考古学者たちが地面を掘り起こして昔の歴史を辿っているときに、一人の農夫が書き残していたものを発見したレシピの一つだそうです。材料の中にオリーブオイルやガーリックなど使っているところを見ると、やはりローマの影響を受けた料理だと感じることができます。

もう一つ、ドイツのデザートも習ったのですが、3000年前も今もドイツでデザートなど採れるはずもなく、ローマ帝国が北アフリカやヨーロッパ全土を支配していた時、古代ローマ人達によって様々な食べ物が運ばれ、遠い国々に広がっていったのを、歴史の流れを遡ってゆくと、彼らの姿が目の前に現れてくるようでした。

主催行事報告

初夏の奈良 大安寺を巡る会員親睦遠足に参加して

会員 井川 伸子

5月29日(日)真夏を感じさせるほどの好天気恵まれ、ここ数年コロナ禍で滞っていた会員の親睦遠足に久しぶりに参加させていただきました。JR奈良駅で名物の柿の葉寿司を味わった後、若草山を目指しながら三条通を東へ歩くこと20分。途中興福寺を見学し、広い公園の至る所から寄ってくる可愛い鹿の間を通り抜け、集合場所の奈良国立博物館に着きました。今回のメインプログラムは、その博物館で開催されている特別展「大安寺のすべて一天平のみほとけと祈り」を奈良日独協会の会員と共に親睦をはかりながら鑑賞することでしたが、醍醐味は何と言っても、その大安寺のご住職であり、しかも奈良日独協会の会長でいらっしゃる河野良文貫主さまが、直接私たちに館内を案内して作品を丁寧にご説明して下さったことで、感極まる思いでした。真言宗の大安寺は、わが国初の天皇発願の寺で、現在は癌封じの寺として有名です。

まず館内に入って目を見張ったのは奈良時代の大安寺が占めていた広大な境内でした。現在の大安寺はJR奈良駅から南へ1km程行った所に位置していますが、当時は今の25倍の広さ(26万㎡)で東京ドーム5~6個分が入るほどの広さ。その中に90余の堂塔が建ち並ぶ壮大な規模の寺院で、七重の塔の西塔、東塔は、大きすぎて敷地内に収まらず、南大門の外側に建てられていたようで、当時としては東大寺に引けをとらない最大の大寺だったようです。そこに国内外問わず1000人近くの僧侶が修行生活を営んでおり、その中に、後世に名を残した空海や最澄もおられたそうです。

展示会場には、大安寺の歴史を物語る仏像や、発掘調査から解明された様々な寺宝、関連作

品などが陳列されていました。数多くある作品の中で特に感動したのは、1本のカヤの大木から彫って作られた仏像で、頭から台座まで亀裂を生じて失敗させることなく細部にわたって丁寧に彫られた仏像芸術です。これが後の平安、鎌倉時代の木彫仏像芸術作品にまで影響を及ぼしました。仏像の顔の表情も色々で、特に怒りを表した伝馬頭観音立像が印象に残りました。これはニューヨークの美術館に運ばれ展示されたことがあるそうで、「再び戦争を引き起こしたら観音様がこのようにお怒りになりますよ」というようなメッセージを付けて展示されたそうで、このメッセージが当時湾岸戦争で苦い思いをしていたアメリカの国民に強い共感を与え好評を博した作品だったそうです。

そのほか、平安時代に焼失した西塔跡から見つかった高さ30cmほどの風鐸(大型風鈴のような物)も調査の結果銅製と判明。金メッキされた表面は少し剥げていましたが、当時は金色の輝きを放って尖塔から平城の都全体に鐘を鳴らしていたことでしょう。しかし、5kgの重さの風鐸を高い七重の塔の上はどうやって運んで吊るしたのだろうかため息をつきながら見入ってしまいました。

河野貫主さまが「中国大陸から仏教を受容し全国に伝えるのに大安寺が非常に大きな役割を果たしました。」とおっしゃった言葉の重みを作品を通じてあらためて感じました。

鑑賞後は奈良コンベンションセンターで開催されているドイツビアフェストに行き、河野貫主さまと一緒にみんなでドイツのビールとソーセージを味わいながら歓談し楽しいひと時を過ごしました。この日は30度を超える暑さでしたので、ビールも美味しく飲めて少し酔いに浸りながら黄金に輝いていた古都奈良を想像して帰途に向かいました。

会員の広場

このコーナーは、会報を通して会員相互の交流をしていただくための「広場」です。ご投稿をお待ちしています。

(投稿規定: MSPゴシック12ポ、A4 1枚程度まで(多くの方に投稿していただくために、字数を厳守してください)、添付にて毎月第2月曜まで事務担当へ)

イエナ便り

☒ ☒ ☒ イエナの最近の様子② ☒ ☒ ☒

会員 竹中らら(イエナ在住)

6月になりました。自然の成長を日々感じられる季節です。家の窓からは Holunder(ニワトコ)の実が見られ、赤く熟しているのが分かります。この植物は山野で自生し、花からは発汗作用のある成分を抽出することができます。ドイツでは薬局でこの成分を利用した Erkältungstee(風邪に効く紅茶)をよく見つけることができます。

私の住むイエナの中心部は大学や広場がありにぎやかな区域ですが、郊外にはザーレ川(die Saale)が流れ身近に自然を感じるすることができます。

先月5月までは Flieder(ライラック)、Magnolie(モクレン)、Kastanie(栗)、Löwenzahn(タンポポ)の花が咲いていました。大学の本館の近くには、ゲートも通った植物園(Botanischer Garten)があり、Ginkgo(イチョウ)の木が植えられています。この木は1790年頃に植えられ、ヨーロッパ

で最も古いイチヨウの木のひとつに数えられます。木の下にはゲーテの詩が記されており、「二つに分かれたイチヨウの葉は、一枚の葉が二つになったのか、それとも二枚の葉が一つになったのか」と恋人への愛がうたわれています。

最近朝も明るく、鳥の声で目を覚ますことができます。特に Amsel(クロウタドリ・ツグミの一種)の鳴き声は美しく、またスマートな姿が愛らしく感じられます。山に登ると、街中では見られない動植物や生物に出会えます。先日ハイキングをした時には、紫色で二又に分かれた花びらの Orchidee(ラン)や、青色や黒地に明るいオレンジ色の羽をもつ蝶を発見しました。

現在私が住んでいる地域はイエナ市内の Lichtenhain という小高い丘の上であり、森も近く静かで落ち着いて生活することができます。一方で3月まで居住していた大学の寮は、Lobeda というイエナで最も人口が多い地域にありました。この地域では1970・80年代に、パネル工法による鉄筋コンクリートプレハブ住宅(Plattenbau)が建築され、人口の増加が賄われました。当時は建築素材が不足しており、例えば10階以上の高層建築にもエレベーターの設置されていないものもあります。幸い大学寮にはエレベーターが4階ごとに設置されており、どこかの階で降り階段を使い昇降することができました。最近では市の主導でこの地域の再開発が進められ、より快適な居住環境、高速なインターネット接続、環境に配慮した(klimaneutral)電力使用などが重点的な課題となっています。

イエナ市内では先日「多様性の日(Tag der Vielfalt)」という催しが行われました。このイベントは今年で十回目となり、街の各所に様々な団体によるブースが立てられ、イエナの国際化・外国人排斥・難民の受け入れなどがテーマとして取り上げられました。イエナ上級市長はビデオメッセージで「特に国際的なこの街イエナが社会の見本となり、これらのテーマに正面から徹底的に取り組んでいかなければならない」と市民に訴えかけました。例えばイエナには、市民や学生のイニシアティブによる、移民の背景をもつ子どものためのドイツ語の補修教室が多くあります。また最近では月に100人単位でウクライナからの難民を受け入れ、大学病院の校舎を改築して家族が住める住宅が整えられたり、一般の家庭からも部屋が提供されたりしています。

このようなイエナの街で生活することによって、多様性というテーマに対して自分自身を敏感にし、常に高いアンテナを張りながら日々の出来事に目を向けていきたいと思います。

第211回

ドイツ語談話室 《テーマ:食料自給率》

日時 : 5月21日(土)14~16:00

場所 : 神戸日独協会会議室

テーマ : 食料自給率

今回の司会は原田耕作氏が担当し、日本の食料自給率は、60年前には75%もあったのに、その後下がり続け、このところはずっと低迷していてわずか35%程度にまで落ち込んでいる実態を話した。目下のロシアや中国の政治的な行動から、日本でも、食糧安全保障の必要性が叫ばれてきている。以下に、参加者の皆さんのテーマに関する発言の一部を紹介する。

- 日本の食料自給率低下の背景にはいろいろな要因があるが、中でも農業従事者の高齢化と、農家の後継者不足が大きな原因である。
- 日本の牧畜や酪農製品の自給率は、数字の上では60%近くを占めているが、家畜の飼料はそのほとんどを輸入に頼っており、本当の自給率はずっと悪いのが実態。
- 戦後日本人の食生活がずいぶん変化してきて、魚類よりも肉類を多く消費するようになってきた。その分、若者の背丈も伸びてきたが。
- 戦後日本政府の農業政策が間違った方向に導かれ、日本の農業生産をダメにした。
- もっと自然に取り囲まれた生活を目指すべきで、そこで自給自足が図れるのが良い。現在我々の周りは人工的なものに取り囲まれて、自然な生活ができていない。
- 日本での自給率が高いコメを、もっと食生活に取り入れるべきだ。パンも小麦でなく米から作るのが良い。
- 発電についても、国内で自給できる水資源をもっと活用すべきだ。全国にある河川を利用して、小規模な発電設備をたくさん作ることができる。
- 国内では多くの食料品が賞味期限切れなどで廃棄されている。こうした食品ロスをなくすことが、食糧自給を助けることになる。
- 遠い国から食料品を輸入するのではなく、近くの生産者から買って、地産地消を進めるべきだ。
- ドイツでは戦後、ルードビヒ・エアハルトらが中心となって、いわゆる、奇跡的経済復興を遂げた。中でも、伝統的な手工業や植栽・農業復興により、ドイツ国内の自給を高めていった。
- 現在、農業の後継者不足から、あちこちに耕作放棄地がみられる。こうした土地の活用が肝要。
- 日本の米、鶏卵、野菜、魚、などは十分自給できているように見えるが、鶏の飼料となる、大豆、麦、の自給率は10%以下であり、鶏卵については、自給できているとは言えない。
- 日本の果物は、信じられないほど高価である。輸入される果物は日本のものに比べても、おいしくてかつ安価である。何かがおかしい。

今後のドイツ語談話室の予定

第212回 6月18日(土) 14~16:00 テーマ : 私の健康法

第213回 7月16日(土) 14~16:00 テーマ : お気に入りの飲み物

Protokoll der 211. Deutschen Gesprächsrunde

Zeit: Samstag, 18. Mai 2022, 14 bis 16 Uhr

Thema: Die Lebensmittel-Selbstversorgungsrate

Dieses Mal hatte Herr Kosaku Harada die Gesprächsleitung und sprach zuerst über die japanische Lebensmittel-Selbstversorgungsrate, die vor 60 Jahren bei 75 % lag, seither aber immer weiter gesunken ist und seit einiger Zeit stagniert. Zurzeit liegt sie bei etwa 35%. Die jüngsten politischen Vorgänge in Russland und China führten dazu, dass nun auch in Japan die Lebensmittel-Versorgungssicherheit wieder verstärkt in den Blickpunkt des Interesses kommt.

Hier einige der Wortmeldungen zum Thema:

- Es gibt viele Gründe für die niedrige Selbstversorgungsrate Japans. Eine bedeutende Ursache ist die Überalterung der landwirtschaftlichen Bevölkerung. Viele Betriebe finden keine Nachfolger.
- Die Selbstversorgungsrate Japans bei Vieh- und Milchprodukten liegt den Angaben zufolge bei fast 60 %, das meiste Futter für die Tiere wird jedoch importiert, wodurch die tatsächliche Selbstversorgungsrate als viel niedriger anzusehen ist.
- Nach dem Zweiten Weltkrieg hat sich das Essen in Japan stark verändert. Man isst nun mehr Fleisch als Fisch. Das mag eine Ursache dafür sein, dass durchschnittlich die Menschen heute größer werden als früher.
- Die Agrarpolitik der japanischen Regierung nach dem Zweiten Weltkrieg hat in die falsche Richtung geführt und Teile der japanischen Agrarproduktion ruiniert.
- Um uns selbst mit Lebensmitteln zu versorgen, müssen wir wieder zu einem naturnäheren Leben finden. Wir haben zu viele künstliche Sachen um uns herum, natürliches Leben ist in die Ferne gerückt.
- Bei Reis ist die Selbstversorgungsrate in Japan sehr hoch. Wir sollten wieder mehr Reis essen. Auch Brot könnte man aus Reis anstatt Weizen herstellen.
- Für die Stromerzeugung müssen wir mehr Wasserkraft nutzen. Wasser gäbe es genug. Zahllose Flüsse kämen für kleinere Wasserkraftwerke infrage.
- In Japan werden große Mengen an genießbaren Lebensmitteln weggeworfen, nur weil das Mindesthaltbarkeitsdatum abgelaufen ist. Wir müssen diesen Lebensmittelverlust verhindern.
- Lokale Produktion und lokaler Konsum sollten stärker verknüpft werden, anstatt große Mengen an Lebensmitteln aus fernen Ländern zu importieren.
- In Deutschland nach dem Zweiten Weltkrieg haben Ludwig Erhard und andere das sogenannte Wirtschaftswunder verwirklicht. Dabei wurde durch den Wiederaufbau von traditionellem Handwerk und Ackerbau auch die Selbstversorgungsrate verbessert.
- Wegen des Mangels an Nachwuchs in der Landwirtschaft findet man überall in Japan brachliegendes Ackerland. Es wäre wichtig, dieses Land wieder zu bestellen.
- Es heißt, dass sich Japan bei Reis, Eiern, Gemüse, und Fisch selbst versorgen könne, da das Futter für die Hühner allerdings importiert wird, kann man bei Eiern wohl nicht wirklich von einer Selbstversorgung sprechen.
- Das japanische Obst ist unglaublich teuer. Importiertes Obst ist viel billiger und nicht weniger gut im Geschmack. Irgendetwas stimmt hier nicht.

Nächste Treffen :

Samstag, 18. Juni 2022, 14 bis 16 Uhr, Thema: Wie man gesund bleibt

Samstag, 16. Juli 2022, 14 bis 16 Uhr, Thema: Mein Lieblingsgetränk

Stammtisch mit Zoom

なぜ私は哲学するのか？：玉田 龍太郎

哲学と聞くと、難しそうと思われる方、多いのではないのでしょうか？ 今回はその哲学をされている方にお話しいただきます。

玉田龍太郎さんはお生まれが龍野市で、龍野市出身の有名人といえば哲学者の三木 清。そんな縁もあって、若い頃から哲学に興味をお持ちでした。広島大学の哲学科を出てから、京都大学の大学院に進み、ドイツの哲学者フィヒテの研究で博士の学位を取得されています。大学院卒業当時は、就職氷河期の真っ只中、大学で職を得るのは大変で、滝川第二中学校・高等学校の国語の教諭となりました。学校で教える傍ら、フィヒテの研究も続けておられ、『フィヒテのイェーナ期哲学の研究』と『三木清とフィヒテ』（ともに晃洋書房刊）は神戸日独協会にも寄贈していただいています。現在、分析哲学の専門誌『フィルカル』にも「哲学と自己啓発の対話」を連載中です。

ここから話は自己啓発に移ります。実は玉田龍太郎さんは百川怜央（ももかわ れお）というペンネームで自己啓発の本も多数お書きになられています。フランスの薬学者エミール・クーエの理論と実践をもとに自ら考案したアフターメーション（自分への肯定的な宣言）「良くなるよ / 私の毎日 / あらゆる面」を朝夕唱えるセルフ・サジェスション（自己暗示）のスキルを活用して、2012年からポジティブ・シンキングの実践を普及推進する諸活動を展開中です。

人は、ネガティブな発言をしたりネガティブな思考をすると、ネガティブな循環に陥ってしまいます。それならネガティブな発言はしないで、ポジティブな発言をしようと考えました。ポジティブな言語習慣からポジティブな思考習慣へと、意識をシフトします。

そして次に、今日の参加者の間で【哲学対話】が始まりました。

【哲学対話】は次のように進めます。

1. 何を言ってもいい
2. 人の言うことに対して否定的な態度をとらない
3. 発言せずにただ聞いているだけでもいい
4. お互いに問いかける
5. 知識ではなく自分の経験にそくして話す
6. 話しがまとまらなくてもいい
7. 意見が変わってもいい
8. 分からなくともいい（梶谷真司『考えるとはどういうことか』幻冬舎新書より）

そこで *Es irrt der Mensch, solange er strebt.*（人は進もうとする限り、迷妄の中を行く）や *Im Anfang war die Tat!*（最初に業（わざ）があった）という Goethe の Faust I の言葉について皆で意見を言ったりしました。

こうして1時間があったという間に過ぎてしまいました。玉田龍太郎さんはドイツ語の授業の時もいつもポジティブだそうです。

（理事：押尾愛子）

6月の Stammtisch mit Zoom のお知らせ

日 時 : 6月18日(土)10:00~11:00

話題提供 : 神戸日独協会法人会員 オスモ&エーデル株式会社専務取締役大黒 義之さん

紹 介 : オスモ&エーデルの販売するドイツの自然塗料オスモカラーについて等、お話し
いただきます。 (理事 押尾 愛子)

神戸日独協会 Stammtisch mit ZOOM

<https://us02web.zoom.us/j/85366355191?pwd=N05kSTl1blVhYkNqc2kvQmd5VjlpPQT09>

ミーティングID: 853 6635 5191 パスコード: 393924

事務室からのお知らせ

📌ドイツ語講座・ドイツ文化教室第Ⅱ期案内は別途ご連絡します

📌事務室開室の変更

4月より事務室の開室時間を変更しました:平日2時~5時

📌会報印刷・発送ボランティア募集

会報の印刷と発送を手伝ってくださる方を募集しております。印刷は会長と会員の二名で行っています。是非ともお手伝いをお願いします。

次回の印刷と発送は7月14日(木)を予定しています。お手伝いいただける方は電話もしくはメールで事前に事務室へご連絡ください。

印刷: 兵庫県国際交流協会作業室(神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1、

国際健康開発センター2階、県立美術館西隣)にて、10:30より1時間半程度

発送: 神戸日独協会にて、12:30~

📌会員相互の情報交換について

神戸日独協会では協会の活動のみならず、会員相互の情報交換のためにホームページの「お知らせ」に“会員からのお知らせ”記事カテゴリを設置しています。このカテゴリでは、協会会員から会員への情報を発信しています。会員相互の情報交換のために、どうぞご活用ください。

<掲載要領>

1. 情報の内容

- ・ 協会会員のドイツ理解および日独交流、協会員の相互交流に資するもの
- ・ 催し物の案内は、協会会員の主催および共催するもの

- ・ 物品の販売など営利を目的としないもの
 - ・ 個人のプライバシーを侵害しないもの
- 250字以内の案内および写真・チラシなどの資料
 - 掲載期間…投稿から1か月
 - 掲載内容についての責任は情報提供者に帰します
 - 記載の体裁については協会に一任するものとします

■事務室貸し出しについて

神戸国際会館19階、神戸の山手の景色をのぞむ事務室を活用してみませんか？

現在、協会の会議室は、各講座や文化教室に利用されていますが、主に昼間は空いている時間帯があります。この時間帯を、会員のみなさまの様々な会合に、ぜひご活用ください。

利用料金：1500円／時間

お申し込みは会員に限りますが、利用者の中に会員外の方が含まれていても結構です。

事務担当の勤務時間(14:00～17:00)外にご利用の場合は、鍵を貸与します(鍵の保管および貸室の管理責任は、申し込み会員にてお願いいたします)。

■これからの神戸日独協会の催し

日時	催し	会場	申込〆切 など
6月11日(土) 10:30～12:00	ドイツ語特別講座 「話す言葉、スピーチ、アカデミックライティング、文学 — 様々なテキストの構成」	神戸日独協会会議室	6月 9日
6月18日(土) 10:00～11:00	Stammtisch mit Zoom	神戸日独協会会議室 ZOOM併用	当日参加可
6月18日(土) 14:00～16:00	ドイツ語談話室	神戸日独協会会議室	当日参加可
6月19日(日) 14:00～15:30	実行委員会	神戸日独協会会議室	当日参加も可
6月19日(日) 15:30～17:30	🍷 Stammtisch mit Wein 🍷	神戸日独協会会議室	当日参加も可
6月25日(土) 10:30～12:00	ドイツ語特別講座 「敬語・丁寧語」	神戸日独協会会議室	6月23日
6月25日(土) 14:00～15:30	ドイツ文化講座 物語における「変身」と「異形化」 —カフカと『鬼滅の刃』・ 『ジョジョの奇妙な冒険』—	神戸日独協会会議室	6月23日
7月 2日(土) 13:30～16:30	「我が家で迎える手作り ～七夕～」	神戸日独協会会議室	6月30日